

# 京林大だより

No.44



絵：卒業生 熊走君



## ドイツ研修2019



6月2日(日)～9日(日) 5泊8日の日程で2年生12名、教員2名の計14名がドイツ研修に行ってきました。

本研修は、ドイツ南西部に位置するバーテンヴェルテンブルク州の黒い森周辺の森林文化や林業、木材産業に実際に触れて日本との違いを認識し、これからの日本における森林の利用について考えることを目的としています。

今年の研修日程は以下のとおりです。

- 1日目：関空⇒ドバイ国際空港
- 2日目：ドバイ国際空港⇒フランクフルト空港、ハイデルベルク市内観光
- 3日目：シュトライト製材所見学、黒い森の野外博物館見学
- 4日目：森の幼稚園で園児と交流、フライブルク市営林署元森林官のレクチャー
- 5日目：林業機械作業現場の見学
- 6日目：ロッテンブルク林業大学にて鳥獣被害と対策についての講義と演習
- 7日目：フロイデンシュタット⇒ミュンヘン空港⇒ドバイ国際空港
- 8日目：ドバイ国際空港⇒関空



間伐作業現場を見学



- ④森の幼稚園で園児と遊ぶ
- ⑤高性能林業機械（ハーベスタ）に乗車

### 学生の感想

今回のドイツ研修では、林業があまり盛んではない日本と林業が主要な産業になっているドイツの違いを見ることができました。高性能林業機械が動いている現場に見学に行った際に感じたのが、日本とは違い傾斜が緩やかなところが多く、重機が簡単に入れ作業がやりやすそうだなというところです。

でも、一番日本とドイツの違いで感じたのが、人と森林との距離が日本よりも近いな、ということです。人と森林の距離が近いということが、林業が大きな産業になりやすいひとつの理由になっているのかなと思いました。

ドイツの林業のやり方を日本で真似して成功できるとは思わないけど、ドイツの人の森林に対する思いや、林業に対する考えを実際に聞けていい経験になりました。



シュトライト製材所の案内をいただいた工場長のシェパイドさんと記念撮影

林業先進国のドイツですが、鳥獣被害や林業労働者の低賃金の問題は日本とあまり変わりませんでした。講師の方々の話には情熱があり、これだけ離れた国同士でも、森林・林業をより良くしようという気持ちは変わらないと感じました。学生もそのことを感じ、ドイツの森林文化に触れ、日本の森林・林業を振り返る良い研修となりました。

# Open Campus & 学校説明会

## 令和元年7月27日(土)

林業大学校内において、令和2年度の学生募集に向けたオープンキャンパスを開催します。

林業大学校に興味のある若人はもちろんのこと、林業機械の実演なども行いますので、地域の皆さんごぞってお越しくださり、将来の森林・林業の担い手たちに、林業大学校の取り組みをお伝えいただければと思います。

また、学校説明会や校内案内・個別相談は、オープンキャンパス後の8月3日(土)・17日(土)・24日(土)に実施いたします。

地域の森林・林業の担い手を育てるために

## 来たれ！京林大へ

詳しい日程は、林業大学校へお問い合わせください。

## 今月の授業参観

### 『伐木・造材実習1』

盛んに行われている伐採・搬出作業には高性能林業機械が導入され、機械の大型化が進んでいますが、チェーンソーによる伐倒は欠かせないものです。

京林大では、1年生の間に1人で安全かつ狙った方向に伐倒できる技術を身に付けることを目標としています。

1年間を通じて使用するチェーンソーを1台ずつ割り当てられた1年生はやる気に満ちていますが、最初は基礎練習が続きます。野球やゴルフで素振りを繰り返す、フォームを大切にしていることに通じると思うのですが、この基礎練習は非常に大切なもので、そのスキルを身に付けて初めて「試合」に臨む、ここでは「立木の伐倒」に進んでいくということになります。

地味な練習ですが、正確な作業が安全につながるのと信念のもと、地道に頑張っていきます。

伸び代満載の1年生に御期待下さい。



## 校長室より

### 地球温暖化、人類終焉？

校長 只木良也

2019年5月にオーストラリアの「ブレイクスルー」という研究機関が衝撃的なレポート。それには、地球の気候変動がそのまま続けば、2050年には人類は終焉を迎えるかも…と記されているとか。

このレポートでは、2015年12月採択の「パリ協定」での目標「世界の平均気温の上昇を産業革命前の2℃未満に抑える」は未達成に終わり、その結果として、2050年までに気温は3℃上昇すると予測しています。地球温暖化最大原因の温室効果ガス排出量は、削減努力はされるものの2030年頃までは増え続け、気温は1.6℃上昇します。2030年をピークにして削減努力の効果で排出量は減るものの、気温の上昇はすぐに停止するものではなく、2050年には3℃に至ること。

気温上昇は、北極・南極はじめ寒冷地域の氷

床の融解、広範囲の永久凍土の消失を招き、また、アマゾン熱帯雨林は干ばつに見舞われて立ち枯れが多発することなどが予想されています。また、高温化で気流が不安定となり、熱波や干ばつ、森林火災など異常気象の被害を受けて、陸地面積の30%以上で乾燥化が進み、南アフリカ、地中海南岸、西アジア、中東、米国南西部、豪州内陸部などで、特に砂漠化が深刻となるとの予測です。

その結果、世界人口の55%が年20日程度、生命に危険を招くほどの熱波に襲われ、20億人以上が水不足に苦しめられる。そして、食料生産量は大幅に減り、10億人以上が生存のため移住を余儀なくされ…、最悪の場合、人類文明が終焉に向かうかもしれないと、このレポートは予測しているのです。

高温化被害の中で、森林の干ばつ、森林火災、砂漠化など森林喪失も指摘されています。この問題は、何も森林が無くなることだけではありません。森林というものが、人類の歴史と文化を支えるのにどれだけ貢献してきたか、森林が無かったら、今日の人類の繁栄もなかったらと思うと……。